

母親たちが デイサービス

心身に重い障害のある子どもがいる山口市の母親4人が同様の症状の子どもを預かる「放課後等デイサービス amiami」を同市下小鯖で運営している。市内では受け皿の福祉施設がないため、自らNPOの法人格を取得し、金融機関から融資を得て開設にこぎ着けた。(門脇正樹)

心身に重度障害の子 輝いて



魚釣りゲームを取り入れた療育活動に臨む子どもやamiamiのスタッフ

山口 受け皿なく自ら設立

amiamiは、障害のある女兒(9)の母親で代表理事の勝田美鈴さん(42)たち保護者4人が看護師ら職員6人と共に運営している。木造平屋約150平方メートルの施設で毎週月一金曜日午後2〜5時のほか、不定期で土曜日にも活動している。

定員は1日10人。現在は主に県立山口総合支援学校の児童、生徒を受け入れている。放課後に学校まで車で迎えに行き、施設でおやつを食べたり、音楽や遊びを交えた療育活動をしたりする。終了後は自宅か保護者の希望場所まで送り届ける。

県内に放課後等デイサービスは115施設(3月末現在)あるが心身とも重度の障害がある子どもを専門で受け入れるのは周南、宇部、下関

看護師と預かり 送迎も

の3市の計4施設にとどまる。残る111施設でもこうした子どもたちを受け入れることはできるが、スタッフの加配が必要なほか、元気に駆け回る子どもと分けて介助するスペースがないため現実的には難しいという。「それなら自分たちでつくろう」と勝田さんが同じ思いの保護者に声を掛け開設へ動きだした。

バザーや寄付などで資金を集める一方、事業計画書を作るため山口商工会議所の勉強会に参加。ほかの放課後等デイサービスでパート勤務して経験を積んだ。日本政策金融公庫や秋山口信用金庫から計約2千万円の融資を受け、施設や運転資金を確保。昨年11月に法人格を取得して事業を始めた。

同サービスは18歳までしか利用できないため将来的には成人も介護できるよう活動の幅を広げる方針。勝田さんは「子どもたちが安心して暮らせるよう親の力でできる限りのことをしたい」と話している。